

1 題材名 日本の美にふれる

2 本題材の目標

- (1) 掛け軸や絵巻物について、形や色彩、余白や空間の効果などを基に、全体のイメージや作風で捉えることを理解する。
(知識及び技能)
- (2) 掛け軸や絵巻物の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えたり、美術文化について考えたりして、見方や感じ方を広げる。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく掛け軸や絵巻物、美術文化などの鑑賞の学習活動に取り組もうとする。
(学びに向かう力、人間性等)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 掛け軸や絵巻物について、形や色彩、余白や空間の効果などを基に、全体のイメージや作風で捉えることを理解している。	鑑 掛け軸や絵巻物の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えたり、美術文化について考えたりして、見方や感じ方を広げている。	態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく掛け軸や絵巻物、美術文化などの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 題材について

(1) 題材観

中学校学習指導要領では、第1学年B鑑賞(1)ア(ア)で「造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や考え方を広げること」と示されている。本時で鑑賞するのは、茨城県天心記念五浦美術館の日本画トランク貸出事業を活用した、横山大観の掛け軸(複製画)4点である。春夏秋冬どの季節を描いたものなのかを生徒が考えることで、生徒一人一人が独自の着眼点をもって作品を見ることができるよう導く。また、班で共有する活動を設定することにより、作品の多様な見方や感じ方が広がることが期待できる。さらに、郷土の画家である横山大観や日本の伝統的文化に実感をもって触れる機会となり、B鑑賞(1)イ(イ)「身近な地域や日本及び諸外国の文化遺産などのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を広げること」に迫る教材としても適している。

(2) 生徒観

生徒は小学校第6学年の社会科で歴史分野の学習を行ってきており、日本の美術文化についても目にする機会があった。意識調査では、日本の美術に興味関心があると回答した生徒は*%であった。和の設えに関して、実物を目にしたことがあるものは、順に「畳*%、掛け軸*%、襖絵*%、床の間*%、絵巻物*%、屏風*%」となっており、畳以外は触れる機会が少ないことが分かった。

(3) 指導観

導入で、社会科歴史分野「近世までの日本とアジア」と関連付け、安土・桃山時代に発展した茶の湯文化に伴う、掛け軸や床の間などの和の設えを紹介する。空間の一部として襖絵、屏風など、生活に絵が取り入れられていた点に触れることで、より身近なものとして日本美術を捉え、生徒の興味や関心を高めていく。鑑賞時には、作品から「なぜそう感じたか」を問うことで、生徒自身が考え、感じたことの根拠を作品の中に見付けることができるようにする。それにより生徒は作品を注意深く観察するようになり、感じたことや考えたことを他者に分かるように伝える力が養われると考える。班での意見交流は、同じ作品を鑑賞しても自分と他者の意見は異なることに気付いたり、他者の意見のよさに感心したり、他者から認められて自分の意見に自信をもったりする機会にもなる。そのため、観察力、感受性、議論する力、自己肯定感、他者の意見を尊重する気持ちを育てることにつながると考える。

本題材を通して、掛け軸(複製画)を目にしたり、郷土の画家である横山大観の作品を鑑賞したりすることで、実感をもって日本の美を感じられるようにする。そして振り返りでは、各教科での学びを生徒の中でつなげることで、より深い学びとなるようにする。

5 題材の指導計画（2時間扱い） ○は指導に生かす評価場面の始まり、◎は記録に残す評価場面

次	時	学習内容・活動	知技	思	態	評価及び評価方法等
1	1 本 時	目標：掛け軸の造形的なよさや美しさを感じ取り、表現の意図と工夫などについて他者との交流を通して考え、見方や感じ方を広げる。 1 小学校社会科で学習したことをもとに、知っている日本の美術について振り返る。 2 本時の学習課題をつかむ。 課題 大観は季節をどのように描き分けたのだろうか。 - リアルタイム学習支援システム「Metamoji Class Room」に予想を入力する。 - 余白や空間の効果、立体感や遠近感、造形的な特徴などをもとに、全体のイメージや作風などでとらえることを理解する。 3 個人で鑑賞し、季節を予想する。 - 横山大観の4つの掛け軸を鑑賞し、学習用タブレット端末で気になるところを撮影する。その情報をもとに、個人の意見を記入する。 - 作品を細部まで観察し、判断の根拠となる点を明確にする。 4 班で意見交換を行う。 - 司会者・発表者・記録者・助言者、に役割分担し、意見交換する。 - 季節を班で考え判断する際、理由が妥当なものかを班で話し合う。 5 学級全体で共有しながら鑑賞する。 - 各班から出た考えをもとに、季節をイメージしながら鑑賞し、作品名と比較する。 6 本時の学習のまとめをする。 まとめ 季節を感じさせるモチーフを選んだり、天候や湿度の違いによる空気感を表現したりすることで、季節を描き分けた。 7 本時を振り返る。 - 今日の課題から学んだことをワークシートに入力する。	○			・社会科の「近世までの日本とアジア」と関連付け、安土・桃山時代に発展した茶の湯文化に伴う、掛け軸や床の間などの和の設えを紹介する。 知：〔共通事項〕の内容について理解できているか見取り、できていない生徒に関しては、構図や余白、作風に着目するよう声掛けを行う。【発言の内容、ワークシート】 鑑：掛け軸を鑑賞し、形や色彩などの感じから根拠をもって季節を考察しているかを見取り、できていない生徒に関しては「なぜそう感じたか」を問うことで、感じたことの根拠を作品の中に見つけることができるようにする。【ワークシート、活動の様子】 ◎ 態鑑：表現のよさや違いなどを捉えようと楽しく鑑賞をしているかを見取る。取り組めていない生徒に対しては、それぞれの作品の季節や時間、天候などを考えるよう声をかける。【ワークシート、活動の様子】 - 全員が掛け軸を間近で鑑賞できるように、班ごとに掛け軸の前に来る時間をとる。個人のタブレット端末で気になる部分を撮影し、細部まで観察できるようにする。 - ICT機器を活用しながら情報共有を行うことで、短時間で数多くの意見を共有することができるようにする。 - 友達と交流し自分の意見を書き込む際、ペンの色を変えたり、矢印を加えたりして考えの変化を書き留めるように指示する。 - 電子黒板にミラーリングして資料提示を行い、見やすくする。 - 学習内容を振り返りながら、生徒からまとめのキーワードが出るように発問し、まとめにつなげる。 - 数名の振り返りを紹介することで、自分の価値観や好みだけでなく、作品鑑賞にも様々な観点があることに気付くことができるようにする。

2	2	課題 絵巻物には、読者を楽しませるためにどんな工夫が隠されているのだろうか。 ・絵巻物の鑑賞の仕方を予想し、実演する。肩幅に開いて巻きながら見ることを知る。 ・場面転換はどのように行われているか、時間の流れはどうなっているかを考える。 ・源氏物語絵巻を鑑賞し、部屋の様子や視点の位置に着目し、吹き抜き屋台の描き方を知る。 まとめ すやり霞、吹き抜き屋台、異時同図など分かりやすくする工夫がある。	○	○	知：〔共通事項〕の内容について理解できているかを見取る。できていない生徒に対しては、余白や奥行きを表し方に着目するよう声掛けを行う。【発言の内容、ワークシート】 鑑：絵巻物の特徴から造形的なよさや美しさを感じ取り、表現の意図と工夫について考えているかなどを見取る。できていない生徒には、具体物を示しながら発問し、作者の表現の工夫などについて考えることができるようにする。【活動の様子、ワークシート】 ◎ 態鑑：【活動の様子、ワークシート】
		<授業外：題材が終了後>	◎	◎	知：【ワークシート】 鑑：【ワークシート】